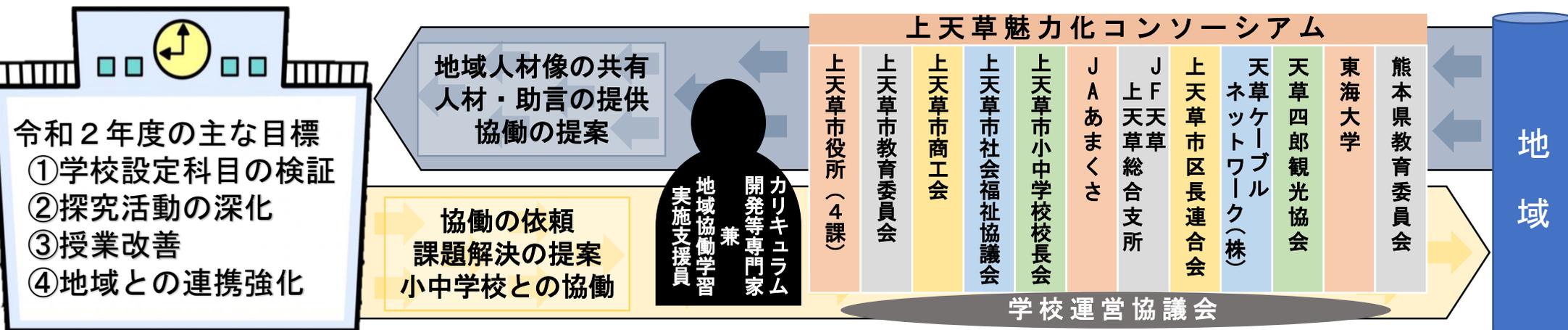


「ひと・もの・資源の宝庫」上天草で未来を切り拓くリーダーの育成

Society5.0に主体的に対応できる地域人材を育成するため、地域や大学等と協働した学校設定科目を軸としたカリキュラム開発を行う。地域との協働を強化するとともに、上天草高校の魅力化を推進し（上天草を愛し）、地域への課題意識や貢献意識を持ち（上天草を支え）、解決に向けて主体的に思考・行動する（夢を追い続ける）人材を育成していく。



令和2年度の主な取り組み状況

- ① 学校設定科目を中心とした探究活動
 - ・ 内容の精選（考える時間の確保）
プロジェクト学習の回数 15回(R1)→24回(R2)
 - ・ 班の課題に応じたコーディネート
地域との活動に参加した班数 5班(R1)→42班(R2)
- ② 授業改善「聞く」「話す」「表現する」プロジェクト
 - ・ ルーブリック評価表による自己評価の実施（6月・12月）
 - ・ 全教科で育てたい人材像とその具体的な能力の共有
→「共通言語」としてのルーブリック評価表の活用
- ③ 学校－地域間における双方向の協働体制
 - ・ 地域主体の課題解決で専門性の高い高度な活動
 - ・ 高校生主体の課題解決で“自分事”としての探究活動
 - ・ エキスパート生徒派遣で中学校の起業家教育との相乗効果

成果

- ① 探究活動の質・量の充実
- ② 授業改善
→ルーブリック評価平均11.5ポイント改善
- ③ 学校－地域間における双方向の課題解決
- ④ ICTを活用した隔地間通信と感染症対策

課題

- ① つながりの多チャンネル化
→特に職員と地域のアンオフィシャルな繋がり
- ② コンソーシアム機能の強化と継承
- ③ 新生活様式に対応したコミュニケーションの確立